株式情報/会社の概要

株式の状況	(2024年6月30日現在)
発行可能株式総数	73,600,000株
発行済株式の総数(自己株式2,504,330株を除く)	19,795,870株
株主数	6,033名

大株主(上位10名)

八州工(工庫:0日)							
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)					
栗山博司	1,492	7.54					
NOK株式会社	1,095	5.53					
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	833	4.21					
クリヤマホールディングス従業員持株会	702	3.55					
クリエイト合同会社	600	3.03					
株式会社三菱UFJ銀行	491	2.48					
クリヤマホールディングス取引先持株会	429	2.17					
株式会社オーハシテクニカ	400	2.02					
タイガースポリマー株式会社	386	1.95					
イーグル工業株式会社	360	1.82					
(注) 1 牡巣リカリサーナ 神吸口 マニケーマンリーナ							

(注) 1.持株比率は自己株式を控除して計算しております。 2.持株数については、千株未満を切り捨てて表示しております。 3.持株比率については、小数点第2位以下を切り捨てて表示しております。 4.自己株式については、上記大株主から除いております。

会社概要 (2024年6月30日現在)

名 クリヤマホールディングス株式会社

英文社名 KURIYAMA HOLDINGS CORPORATION

1939年4月5日

立 1940年12月21日 設

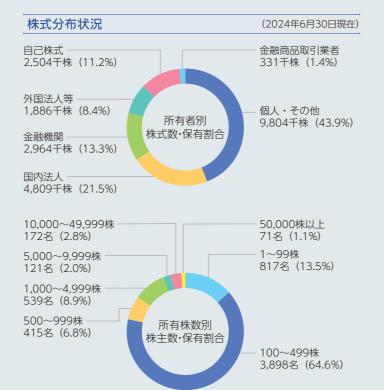
本店所在地 大阪市中央区城見1丁目3番7号

資 本 金 7億8,371万6,600円

取締役 監査等委員(社外)

連結子会社 19社					
役員			(2024年	6月30E	∃現在
代表取締役CEO 社長執行役員	رِّ آر	貫	成	oc 彦	
取締役 上席執行役員(海外統括)	大	村	暢	彦	
取締役 執行役員	きと 兀	木	雄	ぞう <u>=</u>	
取締役 執行役員	ブラ	イアン	・ダッ	トン	
取締役 監査等委員 (常勤)	花	房	いち	郎	
取締役 監査等委員(社外)	ž 加 ž	たに合とう	生 佳 ゅ	ひろ 弘 き	

鵉



株主メモ

事業年度 毎年1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月

基準日 定時株主総会…12月31日

剰余金の配当…期末 12月31日

中間 6月30日

単元株式数 100株

株主名簿管理人及び

三菱UFJ信託銀行株式会社 特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部

〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号

■ 0120-094-777 (通話料無料)

上場金融商品取引所 東京証券取引所 スタンダード市場

公告方法 電子公告の方法により行います。

> ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電 子公告による公告をすることができない場合は、日

本経済新聞に掲載します。

当社の公告掲載URLは次のとおりです。 https://www.kuriyama-holdings.com

証券コード



各詳細につきましては、当社ホームページ及びwebコンテンツをご覧ください。

友







第85期 中間期 2024.1/1 ▶ 2024.6/30



2024年12月期 中間期 決算ハイライト

営業利益

経常利益

親会社株主に帰属する 中間(当期)純利益

中間配当金

403億26百万円

売上高

27億80百万円

31億6百万円

21億9百万円

22.5

□

前年同期比 9.9%增

前年同期比 22.9%增

前年同期比 21.5%增

前年同期比 17.5%增

今期より中間配当実施



2024年12月期 業績予想

前期比

10.8%增

売上高 営業利益

現会社株主に帰属する 経常利益 当期純利益

配当金

44億円

49億円

33億円

13.0%減

45_m

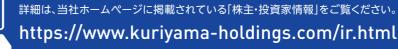
普通配当 5円増 🔒 (総額は前期と同水準)



730億円

前期比

1.9%增

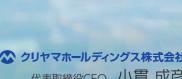


前期比

8.4%增



持続可能な社会づくりに貢献する 企業グループを目指して





第85期中間連結会計期間の経営概況及び業績について

株主の皆さまにおかれましては、平素より格別のご高配を賜 り厚く御礼申し上げます。

当中間連結会計期間における世界経済は、米国では良好な 雇用・所得環境を背景に底堅く推移したものの、欧州では長引 いた金融引き締めによる影響等で停滞傾向となりました。中国 では不動産市場の低迷が続き、景気の回復が遅れています。ま た、中東やロシア・ウクライナ情勢等の地政学的リスクに加え、 インフレの再燃リスク等、依然として先行き不透明な状況が続 いております。なお、米ドル、ユーロに対する円相場は、期初こそ 円高に振れたものの、大幅な円安水準が続きました。

このような経済状況の中、当社グループは、人財育成やグ ループ内連携による営業力の強化、物流体制の最適化により、 国内外での需要の着実な取り込みと利益確保に努めました。ま た、2024年1月にグローバルベースで付加価値のある技術・ 製品・人財を生み出すことを目的に研究・開発組織を再編した ことに加え、ホース事業の更なるグローバル展開を推進するた め、オーストラリアに販売会社を設立する等、企業価値向上に 資する施策を着実に実行しました。

この結果、当中間連結会計期間の当社グループの連結売上 高は、403億26百万円(前年同期比9.9%増)、営業利益は27 億80百万円(前年同期比22.9%増)、経常利益は31億6百万円 (前年同期比21.5%増)となり、親会社株主に帰属する中間純 利益は、21億9百万円(前年同期比17.5%増)となりました。

人的資本の強化について

当社は、2024年6月に、従業員に対するインセンティブプラ ンとして、当社の従業員持株会であるクリヤマホールディング ス従業員持株会を通じて、譲渡制限付株式を付与する制度を 導入いたしました。

当社は、「100年企業」に向けて人的資本への投資を重要な 経営課題と捉えております。本制度の導入は、将来の資産形成 の一助とすることに加え、従業員の経営参画意識を高めること を目的としております。

引き続き、従業員のエンゲージメント向上に資する取り組み を強化することで、企業価値の向上に努めてまいります。

セグメントのご紹介

アジア事業





事業のご紹介

アジア中核事業会社のクリヤマジャパン㈱が、7社の子会社、関 連会社との連携により多角的に事業を展開しております。

産業資材、スポーツ・建設床材、スポーツアパレル等、独自の事業 セグメントを形成することで、さらなる品質向上と技術革新を目 指してまいります。

当中間期の概況

- ●産業資材事業では、建機・農機メーカー等の減産に伴い尿素 SCR用モジュール・タンク等の販売が減少したことに加え、中 国経済の景気低迷により、同国での建機関連商材の販売が減 少し、減収減益となりました。
- ●スポーツ・建設資材事業では、体育館用床材の販売が増加し たことに加え、鉄道施設の安全対策強化に伴う改良・改修工 事の増加を背景に、各種当社オリジナル製品の販売が増加し たことにより増収増益となりました。







北米事業







事業のご紹介

産業用ホースメーカーとして様々な用途に向けたホース及び継 手を取り揃えております。北米・中米の各地に生産工場、販売拠 点、倉庫を配置し、製販・物流の一貫したサービスにより様々な 業種向けにホースを提供しております。

当中間期の概況

- ●堅調な米国経済を背景に、各種ホース・継手の販売が底堅く 推移したことに加え、米国本社・物流倉庫の移転・拡張をはじ めとした物流機能の最適化推進による販売機会の拡大と、円 安の影響が寄与し増収となりました。
- ●売上高の増加が寄与したことに加え、製造及び物流コストの 抑制に努めたことにより増益となりました。







欧州・南米・オセアニア事業



事業のご紹介

ゴム及びウレタン製のレイフラットホース・ノズルのメーカーとし て、生産工場をスペイン・アルゼンチンに配置しております。欧州 域内に加え、北米・南米及びオセアニア地域における販路を拡大 しております。

当中間期の概況

- ●アルゼンチンにおけるオイル・ガス市場向け長距離送水用ホー スの販売が減少したものの、主力の消防機関向け及び農業・ 一般産業分野向けホースの販売が底堅く推移したことにより 増収となりました。
- ●アルゼンチンの子会社に対する超インフレ会計適用がマイナ ス要因となり、減益となりました。







売上高

構成比

7.6%

TOPICS

クリヤマホールディングス(株) 創業85周年

当社は、2024年4月5日に創業85周年を迎えました。ゴム商社と して創業以来、新たな製品開発やグローバル展開を進め、現在では 国内外に連結子会社19社を有し、1,200名以上の従業員を擁するグ ループに成長しました。さらに本年は、東京証券取引所に上場してか ら20年目の記念すべき節目を迎えます。

この特別な節目に際し、創業の地である大阪で「第85回 創業記念 式典・祝賀会」が開催されました。



式典には、大阪本社をはじめとする国内社員や海外中核事業会社 の代表者が集まり、遠方の拠点とはオンライン中継でつながるハイブ リッド形式で行われました。当社CEOは、今後の成長や発展に向けた 決意を示し、次の「100年企業」を目指す成長戦略などを社員全員と

当社は今後も、ステークホルダーの皆さまの期待に応えるため、グ ループ一丸となって挑戦し続けてまいります。

米国中核事業会社 本社移転及び 本社物流倉庫移転•拡張

中核事業会社である「Kuriyama of America, Inc.(以下、KOA)」 は、2024年2月末に本社の移転及び本社物流倉庫の移転・拡張を完 ____ 了いたしました。



本社物流倉庫は、KOA率いる北米グループの中央物流倉庫とし ての機能を有しております。適切な在庫管理及び支店倉庫への補充 による顧客サービスの更なる向上を目指すべく、面積を約2.5倍拡張 したことにより、十分な在庫保管と荷捌きに必要なスペースが確保で きる体制となりました。

また、同年6月に、移転・拡張が完了したことを記念し、本社物流倉 庫にて開所式を執り行いました。当日は、多数の関係者が見守る中、 当社CEOによる挨拶をはじめ、テープカットや倉庫の見学会等を実 施し、新社屋の門出を祝いました。



北米グループは、この度の移転を通じ、顧客サービスの向上及び 需要の効率的な取り込みによる北米市場での更なるマーケットシェア の拡大に努めてまいります。また、欧州・南米及びオセアニア中核事 業会社との連携を強化することで、更なるグローバル展開を推進して まいります。